

# 美術

令和2年度 多摩市立青陵中学校 授業改善推進プラン 教科名

授業担当者 峯尾 真奈

美術科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア	イ
【発想・構想の能力】対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表す。	【鑑賞の能力】造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への取組は、多くの生徒が意欲的に行うことができる。また、用具の使い方や、管理についても適切にできている。</li> <li>図工から美術への意識や感覚の変化は、それぞれの発達段階の差を考慮する必要がある。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を通じて各生徒の発達段階や個性を把握し、適切な指導に役立てる。ア</li> </ul>	6月 11月	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作に対する意欲は高い。</li> <li>時間をかけて多くの作品や名作に触れる機会が少なく、また、自分の作品、他人の作品ともにゆっくりと鑑賞し互いの作品について率直に批評できる時間も不足しており、感性を育てる指導を行うことが難しい。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作に時間がとれるよう、時間配分を工夫する。制作した作品は展示し、互いに鑑賞し合う機会を増やす。イ</li> </ul>	7月 12月	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>過半数の生徒は3年生になってからは意欲的に取り組んでいる。提出物も期限までに出す生徒が増えた。制作にかけられる時間が限られていることで、やりきった達成感を得にくい。その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時数の限られた中で、取り組む題材・作業の充実感をもたせるために、政策の合間に作品を見合う時間つくるなど、指導の工夫が必要である。他</li> </ul>	11月 2月	

<p>■主体的・対話的な学習活動について</p> <p>1・2年 生徒間の鑑賞を積極的に行い、見て学ぶ楽しさを育てる活動。</p> <p>3年 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考える活動。</p>	<p>■授業の終末の工夫</p> <p>1・2年 進捗状況表を毎回記入し作業過程を明確に示し、主体的な取組に役立たせる。各自が振り返りながら作業が進められるようにする。</p> <p>3年 授業の中心の振り返りと見通しをもたせる発問。</p>
--	---